

《深志らしい探究とは？》



教科学習の中で自発的に探究的な学びができている本校生にとって必要な「総合的な探究的時間」とは？

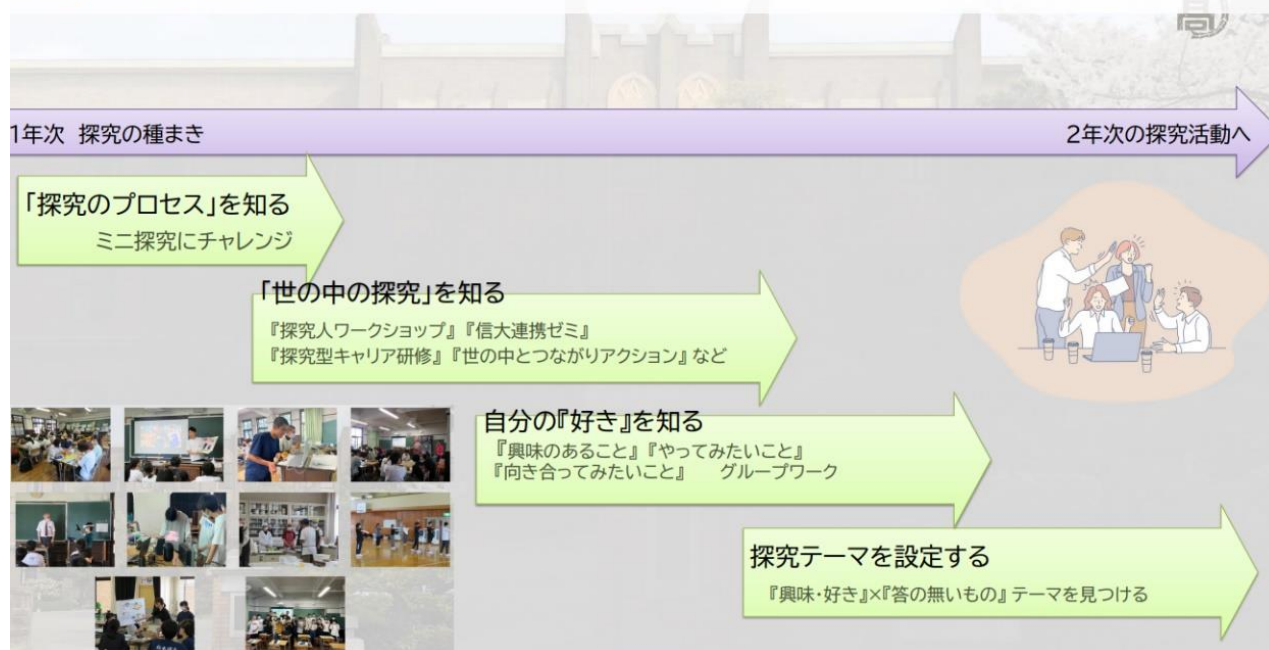
育てたい生徒像や特徴、校風を活かした深志らしい取り組みを考える。

『自分の好きなこと、考えていること、今学んでることがどう世の中とつながっているの？自分はこれからどう生きるの？』

教科学習で身につけた知識理解・思考判断表現・主学態、協働力、創造力、問題解決力、などがどう世の中と結びつくのか、自分がどうやって社会で活躍するか、自らの生き方…これらを、探究学習を通じて外に出ることで経験させたい。

『大学で何を学びたいか』から一歩越えて『社会に出てどう活躍したいか、できるのか』を考えるきっかけ。外部とつながってアクションを起こし、フィードバックをもらう、というのが探究のベース。

松本深志 課題探究のサイクル



本校探究サポーター

信州大学
教職支援センター准教授
荒井 英治郎

一般社団法人KOKO
探究コーディネーター
宮木 慧美 / 田嶋 朝野

松本市役所 地域づくり課
ユースサポート担当
小山 雄聖





探究ウィークの様子

01	澤柳 孝浩 山本 修平	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 松本市役所住民自治局 人権共生課	「女らしさ、男らしさって？」参加型ワークショップでジェンダーについて考えよう！
02	門廻 匡侍	日本政策金融公庫	ビジネスの基礎知識からビジネスアイデアの発想法
03	白石 希典	諏訪東京理科大学マネジメント教育センター	宇宙のダークサイド
04	山口 武彦	諏訪東京理科大学工学部情報応用工学科	Virtual Reality (VR)の基礎と応用可能性: 未来の研究課題について考える
05	星野 祐	諏訪東京理科大学工学部機械電気工学科	数理的な推論と実験に基づくモビリティ開発
06	西澤 久典	松本市社会福祉協議会地域福祉課	城北地区ってどんな地区？歩いて、話して、知ってみよう！
07	梅澤 凌我 / 谷津 凛勇 小島 輝 / 富田 真源	一般社団法人52Hz	グローバルな進路選択に挑戦しよう
08	松澤 亮	㈱テレビ信州報道制作部	高校生とメディア・リテラシー
09	金 日秀	(株)コミュニケーションズアイ	社会心理学の活用 ～幸せな未来は、自分を知ることから～
10	広瀬 純夫	信州大学経済学部応用経済学科	社会データを使って、Microsoft Excelでデータの分析を体験してみよう！
11	丸山 裕貴	Threads	雑誌の特集を企画して表紙をデザインしよう
12	山崎 蓮歌	ストリートダンスカンパニー Buyujin	人はなぜ踊るのか？
13	片山 真人(ガチャ)	㈱松本山雅	松本山雅のガチャさんプレゼン！ 夢や目標に向かって努力することとは？
14	石澤 美代子	松本大学人間健康学部 健康栄養学科	耐災食(災害時に耐えうる食事)
15	山本 達也	清泉女子大学 地球市民学科	AI時代の信州学の視点から持続可能な環境先進都市「まつもと」の未来像を探求してみよう
16	小林 拓水	toishi	コピーライターと、まちの“問い”を見つけておもしろがろう。
17	松本信用金庫 地域経済活性化グループ		松本信用金庫×PARCO×松本深志高校 「パルコフィナーレに向けて、思い出に残るイベントを企画しよう！」



7/23,24 1・2年合同探究縦割り企画 1年「ミニ探究プレゼン発表」&2年「探究中間報告」



7/25 深志×県ヶ丘 探究コラボ企画 「聞きたい! 知りたい! 発表会」 「テーマ発想★ワークショップ」



夏休み探究型キャリア研修

探究型キャリア研修

01	日本銀行 松本支店	ディスカッション
02	セイコーエプソン	施設見学・ワークショップ
03	八十二銀行	ワークショップ
04	久保田法律事務所	ディスカッション
05	松本市美術館	施設見学・ワークショップ
06	長野地方裁判所	施設見学・パネルディスカッション
07	信濃毎日新聞	記者との座談会
08	アルピコ交通	ワークショップ
09	松本山雅	生徒プレゼン・ホームゲーム運営
10	キッセイ薬品	施設見学・研究者との質疑応答
11	信州大学医学部附属病院	グループディスカッション
12	松本市役所 地域づくり課	探究の相談

自主選択

協立病院医師体験
長野県薬剤師セミナー
高校生医学部進学セミナー
アメリカ STEAM教育短期留学
アメリカ ユタ州ホームステイ
どあい冒険くらぶ ボランティア
オーストラリア 短期留学
信濃毎日新聞中高生米国派遣
松本市主催 スイスのグリンデルワルト村の方と交流
福田雅治法律事務所 職場体験



信大連携ゼミ

信大連携ゼミ ①10/5 ②10/26 ③11/9 ④12/7

01	消費者教育	田村 徳至	合意形成と自己決定
02	教育心理学	横嶋 敬行	感情から心を研究するゼミ
03	建築学	勝亦 達夫	建築とまちづくり～まちを見る視点と課題解決
04	天文学	三澤 透	宇宙について語り合うゼミ
05	グローバル教育	仙石 祐	異文化コミュニケーション入門ゼミ
06	統計学	松宮 慎治	触れて楽しむデータ分析・因果推論
07	文学	松岡 幸司	「本を読む」ことについて考えるゼミ
08	文化人類学	分藤 大翼	異文化に学ぶ
09	環境社会学	金沢 謙太郎	生態資源ゼミ
10	教育社会学	加藤 善子	「深志の自治」プロジェクト
11	医学	中澤 勇一	医学教育モデル・コア・カリキュラムの先取り学習



深志教養ゼミ

01	上原 愛恵	国語科	おみくじのヒミツ	深志教養ゼミ ①10/5 ②11/9 ③12/7
02	秋本 裕子	社会科	色について学ぼう	
03	速渡 賀大	社会科	むかしの文書から歴史をよむ	
04	柴 那和	数学科	証明の展覧会(PWW手法による主体的な学び)	
05	伊藤 泰	理科	倍音でハモろう！	
06	井手 俊毅	理科	剛体の運動高校物理+α	
07	清水 雅史	芸術科	“筆伝”(大筆を順につないで文字を完成)を楽しもう！	
08	伴野 大悟	外国語科	ビジュアルデザイン	
09	仲林 聖 里 憲治	外国語科 医学部予備校講師	なんちゃって社会学	
10	大井 幸代	家庭科	布を絞り、藍で染めよう	
11	大井 幸代	家庭科	デコレーションケーキを作ろう！	
12	石川 裕之	学校長	ブラフカシ〜松本城下町の名残をブラブラまわる〜	
13	媚山 裕之	ファイナンシャルプランナー	媚山裕之のニーサ、そうだったのかー!!	
14	和田 博	数学の学び資料館代表	数学を“味わう”	
15	征矢野 清	長崎大学海洋未来イノベーション機構	「海」と「海に関わる産業」に関する最新研究に触れよう	
16	上田 泰史	明治安田生命 日本アクチュアリー会 専務執行役理事長	生命保険の仕組みとアクチュアリー	
17	吉田 貴寿	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科	空間設計xAIに関わる研究紹介とワークショップ	
18	今泉 牧子	史学博士	官僚(男)はつらいよ〜近世中国の地方官の苦悩〜	
19	関 有沙	信州大学理学部理学科地球コース研究員	昔の地球環境はどうやって知るの？	



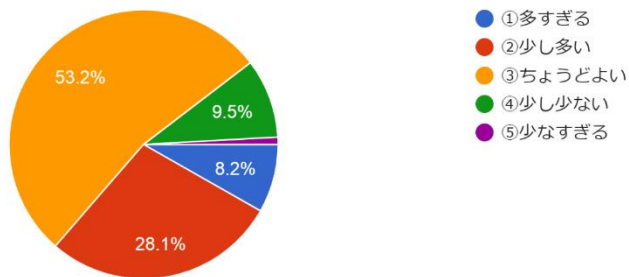
探究評価ルーブリック

	1 (期待する状態にない)	3 (やや不足を感じる)	5 (おおむね満足できる)	7 (満足できる)	9 (満足できる以上に良い要素がある)
独 自 み 深 志	・既存のアイデアや提案の模倣であり、発表者のユニークなアイデアや視点、提案は全く含まれていない。		・発表者のユニークなアイデアや新しい視点、提案は含まれているが、独自性という点において既存のものから脱却しきれていない、または単に奇をてらっただけのものにとどまっている。		・発表者のユニークなアイデアや新しい視点、提案が含まれており、それらには独自性がある。さらにそれらは単に奇をてらったものではなく、探究を通じた思考の過程で生み出されたものである。
主 体 み 深 志	・(問い→仮説→検証→結果・まとめ)という探究サイクルを1周もまわすことができていない。		・探究サイクルを1周回して「結論・まとめ」には至っているものの、その結論から新たな問いを見出し、さらにサイクルを回すには至っていない。		・探究サイクルを1周回し、出た結論から新たな問いを考察し、新たな仮説の検証へと進んでいる。(探究サイクルを意欲的に進め、2周目以降に達している)
知 力 み 深 志	・学術的なアプローチをとっておらず、データや引用の量と質が不十分で仮説の検証ができていない。または、主観的な情報がほとんどを占めている。 ・結果に対する理論的な考察が行われていない。		・学術的なアプローチをとっているものの、データや引用の量や質がやや足りず、仮説の検証が完全にはできていない。 ・結果に対する理論的な考察が不十分であり、新たな問いを見つけるに至っていない。		・学術的なアプローチで検証を進めており、データや引用の量と質が十分である。仮説の検証も十分に行われた上で結論に至っている。 ・結果に対する理論的な考察が行われ、新たな問いが生まれている。
社 会 み 深 志	発表者の探究は社会(世の中)との関わりが全く無いまま自己完結して終わっている。		発表者の探究は社会(世の中)との関わり(インタビューやフィールドワークなど)を持つことはできているものの、具体的に社会に還元できる要素や可能性について考えるには至っていない。		発表者の探究は社会(世の中)とのつながりを持っており、さらにその関わりの中で得られた結論や作り出したものを何らかの形で実際に社会に還元することができている。
プ レ ゼ ン み 深 志	・聞き手を意識した発表になっておらず、さらにプレゼン資料のまとめ方も分かりにくい。		・おおむね聞き手を意識した発表になっており、資料のまとめ方も分かりやすい。		・発表全体を通して聞き手を意識した発表になっており、資料のまとめ方も分かりやすい。

R06 信大連携ゼミ 1 学年アンケート抜粋 [2024.12.07 実施][対象：1 学年生徒全員]

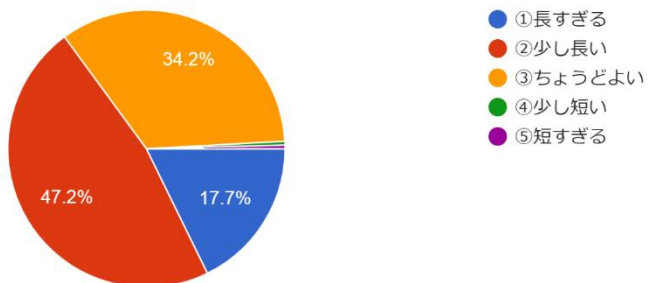
1. 回数について(全4回、1回目はオンライン)

231 件の回答



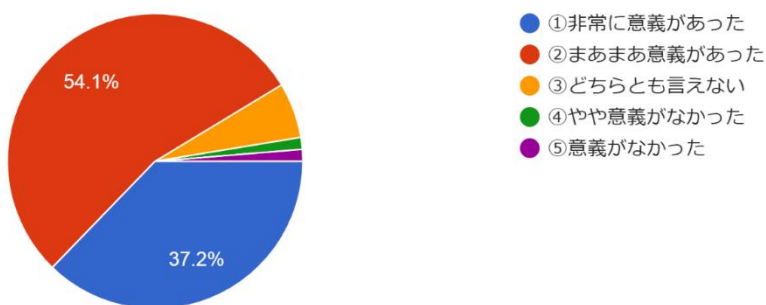
2. 各回の時間について(3時間)

231 件の回答



7. 信大連携ゼミは上記意義と照らし合わせて...

231 件の回答



来年度の探究のテーマが全く決まっていなかったが、信大連携ゼミを通して、来年のテーマになりそうなことを見つけることができた。

これから生きる上での学びを得たと思う。

自分が知らなかった新しい発見をすることができて、普段なら気にすることがないことにも気づくことができた。

私は、文化人類学を選択したが、異文化を学ぶ機会は今までもあったけれど、学んで知識を得るだけでなく、その考え方や価値観を自分の生活や考え方の中に取り入れていくという視点で学ぶことが出来た。

普段関わりのない人とも、グループワークなどを通じて楽しく受講できた。

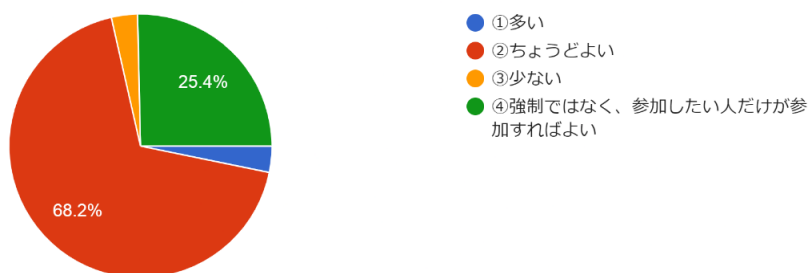
自分 1 人で物事に興味を持ち、それについて考えるだけでは得られない、たくさんの新しい考え方を学ぶことができた。

原因と結果を結びつけて考えるだけでなく、そこにどのような因子がどういうふうに関わっているのかを考えるようになった。

R06 深志教養ゼミ 2 学年アンケート [2024.12.26 実施][対象：2 学年生徒全員]

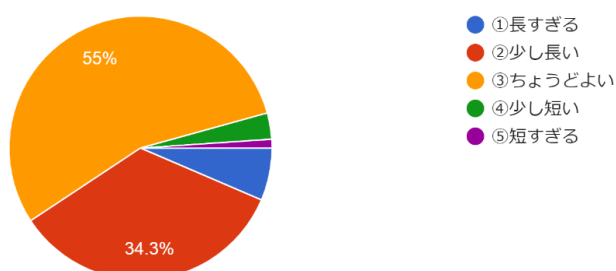
1. 回数について(現在の仕組み：全 3 回のうち最低 1 回は出席する)

280 件の回答



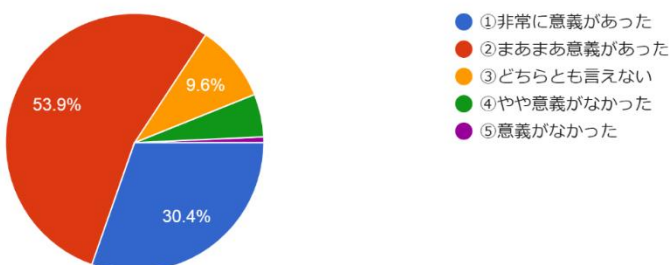
2. 各回の時間について(3時間)

280 件の回答



5. 深志教養ゼミは上記意義と照らし合わせて...

280 件の回答



普段はあまり気にしていない自分の身の回りのことを改めて見直すことで新たな発見ができた。

時代と共に変化する産業や研究などのフロンティアな部分について知ることができ、その分野における新たな興味や、自分の進路への期待が持てるような内容を学ぶことができた。

自分が何に興味があるのか、よく見つめ直すことができました。

自分が考えもしなかった物事に携わる人の話を聞いて新しい知識が身につく、興味が生まれた。

文理の学問を融合させて論理的に考える機会になり、物事を色々な視点からみて学べたと思う。

普段教わることのないテーマや内容を講師の方々に教えていただいて、自分がどれだけ世の中の物事に対して無意識に偏った考え方をしているのかを痛感しました。そこから、物事に対して多角的に捉えることの大切さを学びました。また、深志教養ゼミを通して仲間と対話しながら理解を深めていくことの重要さというものを学びました。

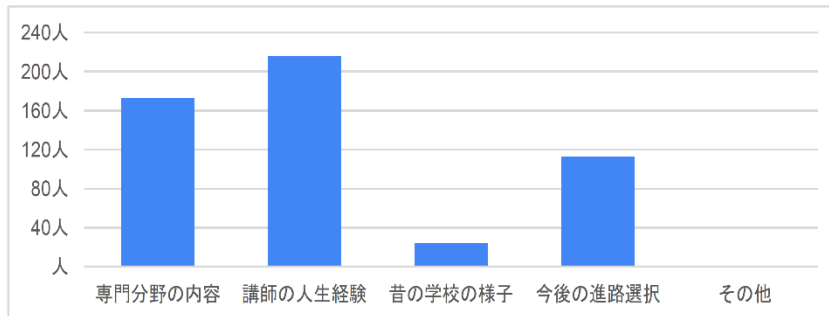
令和6年度 尚学塾特別講義 生徒アンケート結果

◆ 深志46回生 特別講義

11月15日（金） 2 学年対象

アンケート回答： 281 名

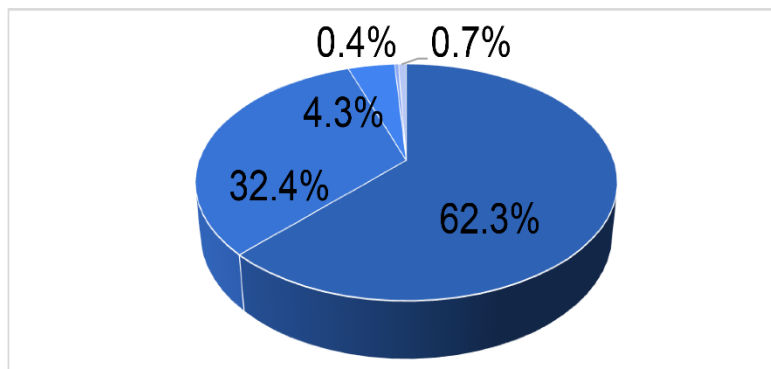
【設問1】聴講して、印象に残ったこと。



（複数回答可）

専門分野の内容	173人	(61.6%)
講師の人生経験	216人	(76.9%)
昔の学校の様子	24人	(8.5%)
今後の進路選択	113人	(40.2%)
その他	1人	(0.4%)

【設問2】講義内容は、自分の進路選択を考える上で役立ったか。



大変役に立った。	175人	(62.3%)
役に立った。	91人	(32.4%)
ふつう。	12人	(4.3%)
あまり役に立たなかった。	1人	(0.4%)
役立たない。	2人	(0.7%)

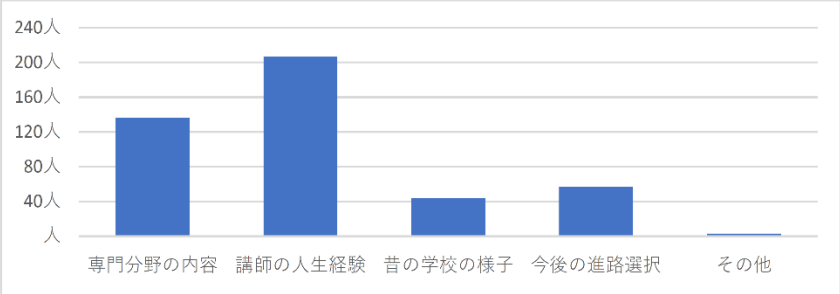
講師	講義テーマ	感想
1 三澤 充	高校からの出会いで人生は変わっていく ～深志の劣等生が世界で仕事をするようになったわけ～	自分は、漠然と弁護士になりたいと思っはいるけれども、明確な理由もなければ暗記得意じゃないから向いてないかなと思ってたけれど、お話をきいて努力次第だと改めて実感した。勉強のモチベーションに波があって、全然捗らない時、努力できない時すぐ自分が嫌になるけれど、そんな自分の弱さも認めていいという言葉に救われた。自分は不安要素があるとストッパーをかける癖があるけど、失敗しても誰かが助けてくれると思って、一歩踏み出すようにしていきたい。その時、助けてもらえるようにするためにも、今いる友達を大切にして、さらに交友の幅を広げていきたいと思う。
2 田中 一興	社長20年 ものづくりにこだわった故の巣っぶちからの脱却	建築の分野に興味があり、進学しようと考えているので、今回のお話を聞いてより一層この分野を学びたいと思うようになりました。私も、今すぐに他の国に旅行とは行きませんが、自分の身の回りのものに向けて知見を広めたいと思います。
3 花岡 宏史	大学における研究者とは？	専門分野だけではなく、進路や研究についてなど幅広いことについてお話し頂き、元々興味があった研究や科学についてよく知ることが出来ました。ありがとうございました。
4 荻原 裕明	消化器外科医としてのあゆみ	個人的に外科という進路は決まっていたのですが、何科に行こうかなどは研修で決めようとしていたところ、消化系の良いところ、また外科の全体としての良いところを知れてとても有意義でした。
5 松山 裕一	ソラカラ (from sky 空から, sora color 空の色)	今の会社に就職するまでにいろいろなことを考えながら、いろいろな会社を経験してきたことがわかり、興味深かった。やりたいことは早く決めるとよいとよくわかった。
6 鈴木 千鶴	つながりを大切に ～みんなちがってみんないい	なんていうか、特別支援学級についてあまり考えたり、知ることは今までなかったので、お話を聞けたり、とても有意義でした。できないことばかりを探すのではなくできることに目を付けていくべきなんだと感じました。そして、大変な中でこのような企画を考える特別支援学級に勤めている方はすごいなと改めて思いました。
7 中村 径	コックピットから見た世界と、みなさんの将来について 思うこと	パイロットは特別な人しかなれないと思っていたので、頑張ればちゃんとなれるということが知れてよかった。私は目が悪いのでパイロットにはなれないかもしれないが、取り敢えず今は勉強と部活を頑張って、中村さんのように素敵な職業と出会いたいと思った。とても面白い講義だった。
8 三澤 由佳	小児科医、小児リハビリ科医になるまで、なつてから 自分にしかできない仕事を ～ナンバーワンよりオンリーワンをめざそう～	医者は大変なことが多いと聞いていたが、その大変なこと、忙しいことの中にはたくさんのやりがいを感じる場面や、たくさん悩んで人の将来を決めるのに携わることができるのだと改めて聞いて、単純ではありますが、こんなかついい仕事をしたいと思いました。リハビリ科が行っていることを今まであまり知りませんでしたが、患者さんの日常生活を隣でサポートし、その人の成長をともに感じられると思い、とても感動しました。医者になるのが夢なので、勉強は頑張ろうと、人との何気ない関わりやコミュニケーションを大切にしたいです。貴重な講義をありがとうございました。
9 森本 貴之	文化の酒 日本酒 信州松本の気候風土を一滴に。そんな思いで醸す日本酒 造りを通して気付いた松本の強みと、日本酒と日本人との切っても切れない繋がり。	それぞれの酒には必ず文化的な背景があることを知ってとても興味深かった。今はあまり実感出来ないけど、松本の魅力を再認識することができたし、いずれ松本の魅力を実感できるようにしたい。お酒が飲めるようになったら、日本酒に積極的に挑戦してみたいなと思った。
10 平谷 憲一	ダイバーシティ ～人それぞれの生き方～	進路選択において何を大切にすべきなのか学べた。やっぱり結局は自分が何をしたいのかが重要でそれがあると有意義な人生を過ごせるのではと思った。今は悩むことも多いけど自分を見失わずにいきたい。
11 猿田 泰寛	「最高峰」への挑戦	とてもカッコいい生き方だと思った。
12 小島 寿一	「テレビ離れ」と「親離れ」と「肉離れ」	将来上手くやって行けるかの漠然とした不安があったが、Que sera, seraを合言葉に生きていこうと自信を持つことが出来ました。挑戦することの大切さに気づくことが出来ました。
13 天田武史	「クリエイティブ」な視点ってなんだろう？	広告系やデザイン系の仕事は自分には向いてないかと思ってたけど、クリエイティブな視点を持つことで自分にもできることがあるんじゃないかなと思えました。広告やコピーは人の心を動かすものであり、枠にとらわれないものの見方というのは自分自身もすごく大事にしていきたいと思いました。ありがとうございました。

令和6年度 尚学塾特別講義 生徒アンケート結果

◆ 深志26回生 特別講義
11月22日（金） 2学年対象

アンケート回答： 285 名

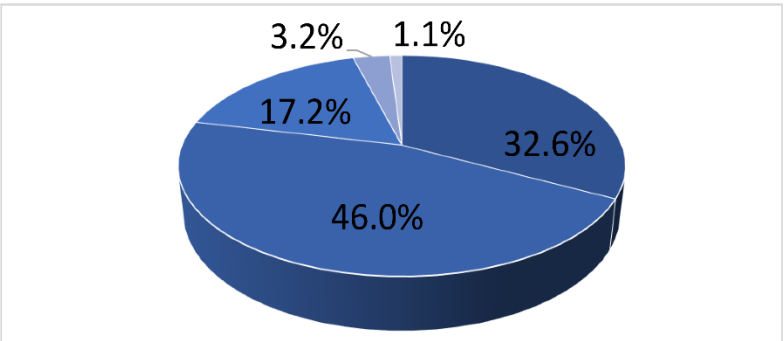
【設問1】聴講して、印象に残ったこと。



(複数回答可)

専門分野の内容	136人	(47.7%)
講師の人生経験	207人	(72.6%)
昔の学校の様子	44人	(15.4%)
今後の進路選択	57人	(20.0%)
その他	3人	(1.1%)

【設問2】講義内容は、自分の進路選択を考える上で役立ったか。

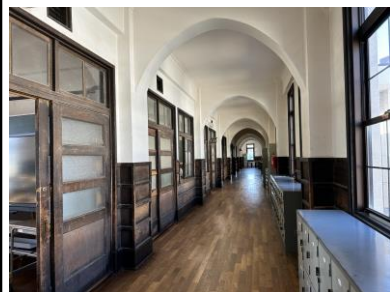


大変役に立った。	93人	(32.6%)
役に立った。	131人	(46.0%)
ふつう。	49人	(17.2%)
あまり役に立たなかった。	9人	(3.2%)
役立たない。	3人	(1.1%)

講師	講義テーマ	感想
1 佐々木 基	「国の行政はどのように動いているか」 ～時代を読み時代を超えて。地方から国から世界へ～	行政をより良くしていくためには一つの固定観念に縛られず、多様な考えを様々な人々と共有していくことが大切だと学んだ。これから世界と行政に関心を抱いていきたい。
2 菱山 晋一	「ほぼ全部話します 信越放送とはどんな会社か？」	ニュースなどを放送する企業についてはあまり聞いたことがなく、詳しくは知らなかったが、話を聞いて報道するうえでの工夫や情報の真偽の大切さを学びました。
3 雨宮 有二郎	「映画『さよなら、クロ』製作を題材に 『ものづくり』のヒントを探る」	昔の学校の様子を知る機会はほとんどないので、聞いていてとても興味が沸いた。映画を作るのにも様々な人の協力が必要で、そこから更に観客に届けたいというのはとても大変な事だということが分かった。機会があったら見てみたいと思った。
4 清水 秀樹	「いまでも第一線でITコンサルタントを続けられている訳」 ～生涯続けられる仕事にたどり着くための人生の歩き方～	ITに関することを詳しく知ることができて良かったです。人生には谷があるから山ができる、という考え方が印象的でした。今後、様々な困難に直面してきてしまった谷も、マイナスに捉えるのではなく「この困難もきっと必要なことなんだ。」とプラスに捉えられるように意識して、たくさんチャレンジしていきたいと思っています。
5 碓井 稔	「夢を力に究め極める エンジニアとして経営者として、より良い世界の実現に向けて」	自分が知りたい、作りたいと思うものがあることが大きな動力を生み出すと分かり、自分でもそうしたものに会えるよう、たくさんのことを知っていきたいと思った。
6 土川 勉	「好きなことを続けること、それは「楽しい」だけじゃない」 (YOASOBI～群青～から)	実際のお仕事ハードさにとても驚きました。好きなことをすることは楽しいことだけではないが、大変な中にも救われる瞬間があるということが印象に残っています。私は●●部に所属しているのですが、音楽が好きでこの部活をやっている、自分の思う様に弾けなかったり、音楽以外の人間関係などの部分で悩んだり…正直、楽しいことだけではありません。特に今、先輩との関係や熱量の違いに悩んでいるのですが、今回の話を聞いて、辛い中でも自分のやるべきこと、やれることをしっかりやろうと思いました。本日はありがとうございました。
7 佐藤 京子	「チャンスを招く、チャンスに気づく」 ～ガラスの天井に頭をぶつけないように～	多様性を受け入れる力を身につけたいと思った。自分自身が寛容な態度であることが第一に大切なことだとわかった。とにかくやってみることが大事だと思う。何事にも挑戦することで世界が広がると分かった。仕事、勉強以外の自分が興味を持ったことに積極的に挑戦することも何かに繋がると信じて伸ばしたいと思った。私も先生のように自分の本当にやりたいこと、社会貢献に繋がれるようなことができるように今のうちから努力を惜しまずとにかく挑戦してみようと思いました。
8 関 克久	「やりたい事はいつから初めても遅くない」	日本人はもうちょっと能天気になった方がいいっていう言葉が印象に残りました！あと、いろんなことに勇気を持って挑戦してみたいと思いました。私は海外に少し興味があったんですが、より興味がわきました！これから、自分の好きなことや一生懸命頑張りたいことがみつけれたら、思う存分楽しんで自分のスキルを磨いていきたいなと思いました。大学に行って、就職して終わりじゃなくて、ずっと自分を成長させて行けるような環境を求めて学びの多い人生にしたいと思いました。

長野県松本深志高等学校 視察報告

～自治の追求により骨太のリーダーを育成する高校～



登録有形文化財に指定されている教室棟（11月1日撮影）

令和5年11月1日（水）、長野県松本深志高等学校を視察した。同校は、本年度、創立147年目の男女共学の公立高校である。「高いレベルでの様々な学び」を通じて、「自治の校風」を追究し、その理想を具現化することにより、他者と協働してよりよい社会を創造し支えることができる、力強く骨太な人材育成をめざしている。社会の様々な分野で活躍する卒業生を多数輩出し、今春の卒業生の主な進路先としては、北大13名、東大3名、国公立大・医・医合計25名等となっている。部活動競技や各種コンテスト等で、全国レベルの活躍を見せる生徒もいる。生徒の自治を重んじ、校則や制服を定めていない。学業、部活動、生徒会活動、課題探究等、学校教育全体を通じて、自ら考え、自らの責任で行動できる人材を育成している。

生徒会活動 ～探究的に自らの課題解決を図る場～

「深志の自治の象徴」とも言われる「とんぼ祭」は、毎年七月に四日間にわたって開催されている。とんぼ祭を実施する目的や企画内容、当日の運営、感染症・熱中症対策等の危機管理に至るまで、生徒自身が議論を重ねながら作り上げている。生徒はこのとんぼ祭を日頃の研究成果や、仲間との協働を発揮する場と考えている。

生徒会予算約七百万円の使い道に関しても、生徒達が折衝会・生徒大会を経て、自ら決定している。予算折衝では、各部の請求に対し、会計経理委員会が綿密な調査を行い、長期的な視点で購入する物品の優先順位を判断しながら、調整を図る。議論が白熱し、長時間に及ぶことも少なくないという。

さらに、部活動中における近隣住民への騒音問題についても、生徒自身が抱える課題であると捉え、地域の方と連携しながら、その解決を図ったという。この課題を機に、「鼎談深志」という組織を立ち上げ、住民・生徒・学校がよりよい地域コミュニティを構築するために対話を重ねている。

こうした自治活動が可能となったのは、長い歴史の中で先輩から後輩へと受け継がれている深志の精神の他、教員の生徒に対する関わり方も大きいと感じた。対等の大人として生徒と対話する姿勢、会議や予算折衝の後には丁寧な話を聴き、必要な情報提供を行う等の後方支援も欠かさない生徒の自己肯定感を大切に、あくまでも陰から支える形をとっている。



丁寧な質問に答えてくださった校長先生（右）、教頭先生（左）

2023年11月17日
第125号

発行

群馬県総合教育センター

高校教育研究係

〈長期研修員〉

小林 育美

（県立富岡高校）

知の探究



英語の授業における協働的な学びの様子

同校では、課題探究や信州大連携ゼミ、各分野の第一線で活躍する卒業生を講師とした特別講義等を通じて、生徒が本物の学びや、実社会とつながる学びをつかむ場を創出している。また、日頃の授業では、教員の個性が活かされ、おり、生徒は知識注入型の学び、探究型の学び、協働的な学び等、様々なスタイルの学びから、知の探究を深めている。

編集後記

今回の訪問では、昼休みに、前生徒会長と前会長補佐役の生徒二名と対談する機会も設けていただいた。その中で、生徒は「深志は、伝統校ではなく、traditionalな学校です。昔のものをそのまま引き継ぐのではなく、社会の変化に柔軟に対応していきたい。」と熱く語ってくれた。昨今、正解のないVUCAの時代と言われるが、深志の時代の生徒は、自ら考え、判断し、行動している様子が見て取れた。陰ながら支えてくれている先生方への敬意も持ちながら、自治の精神を発揮している生徒の姿に大変感銘を受けた。

生徒が学校をプロデュース

松本深志高校の生徒は、学校の広報活動にも積極的に携わり、学校の魅力を発信している。そのうちのひとつが、生徒が管理する「生徒ブログ」である。学校行事や部活動、日々の学校生活に加え、高校受検を控えた中学生に向けて、学ぶ意義や進路選択等についてのメッセージも発信している。また、中学生体験入学では、生徒が「深志高校のリアル」を伝えている。生徒自ら作成した動画をもとに、中学生向けに説明を行うほか、保護者や教職員対象のパネルディスカッションを通じて、生徒・卒業生が保護者の不安に丁寧に答えている。さらに、生徒は、中学三年生向けの学校パンフレットの作成も手掛けた。中学生に伝わるように、内容やレイアウト、配色、写真収集、文章作成等を工夫するとともに、業者の方や先生方とも綿密に打合せを行ってきた。パンフレットの表紙をめくると、石川裕之校長先生と現生徒会長の生徒が「深志の自治」について熱く語り合うページが登場するなど、特色ある仕立てとなっている。

周年事業と母校支援 150周年がめざすもの

2026年の創立150周年に向けて、具体的な記念事業が同窓会総会で承認され、各事業委員会が動き出しました。

同窓会の周年事業は10年毎に行われていますが、この形は1956年の創立80周年からです（注）。周年事業の主な内容は母校支援と会員同士の親睦ですが、母校支援の内容をみますと、80周年時には同窓会PTA育英基金が造成され、90周年には新図書館の建設、100周年には「深志教育会館」が建設されました。この間の周年事業でも教育環境の整備として様々な施設の充実が図られました。設備面の充実が主であったようです。

今回の150周年事業では、国内外での生徒の研修や学びを資金面で直接支援します。特に海外研修への支援は、国際的視野が益々重要になってきた時代の要請を踏まえたもので、以前から総会の場でも会員から課題提起されており、記念事業予算の多くをそれに充てます。

生徒への直接支援を採り上げた背景には、深志の魅力を対外的にアピールする狙いがあります。近年、公立・私立高校で中高一貫教育や特徴あるコースが設けられるなど、多様な学びの選択肢が中学生に提供されています。それに伴い、中学生はいわゆる偏差値よりも、各高校の特色や、自分に適した学びのスタイルに合った高校選択をする傾向性が強ま

っており、深志も対外的にその魅力を発信してより多くの中学生が深志で学びたいと思うよう努めなければなりません。

現在、高校のHPは在校生が作成し、中学校への学校紹介にも積極的に取り組んでいます。通常の授業だけでなく、生徒が外部の専門家と共に主体的に学びに取り組んでいる姿、学校・同窓会が若者の国際経験の大切さを認識して、一体となつてその機会提供に努めている姿勢を対外的にアピールすることは、やる気に満ちた優秀な将来の深志生の確保に繋がると思います。

設備の充実のように形として残る支援ではありませんので、毎年実施状況をチェックすると共に、5年間という期間を設け、制度そのものを見直す形にしました。

戦後、80周年事業から始まった10年毎の節目での母校支援実績を踏まえ、151周年以降の母校の発展に資する事業としては是非とも実現させたいと思います。皆様の募金によるご協力を宜しくお願い申し上げます。

150周年記念事業実行委員長代理
副会長 赤羽総一郎（25回）

（注）1956年を創立80年にしたのは、1876年（明治9年）に開智学校内に作られた愛則中学校を起点としています。その前は、戦前の1934年に創立50周年の記念行事が行われていますが、これは1884年の長野県中学校松本支校が設立された時点を起点としています。1934年から1956年の間は、戦争による混乱や学制の変更などで、年表に記載されるような周年事業は行われなかったようです。
参考資料…「深志140年のあゆみ」

講話

令和6年9月の同窓会定時総会では、今まで見られなかった光景がありました。それは、現役の深志生の登場です。定時総会では校長による学校の近況報告が恒例です。今年は、それに加えて、生徒自身によるプレゼンテーションが行われました。

当日の発表は2組。まず、2年生2人による「スタンディングデスクを導入」は授業中の居眠りを防ぐため、立ったまま授業を受ける机を考案したもの。実際に木工所と共同して高さの違う机を4台制作し、教室に置いてその効果を検証しているという発表でした。（2ページ写真参照）

次は、ダブルグッチ部所属の2年生3人による「自動縄回し機を作ろう！」。最低3人いないと練習できないという切実な事情から、松本工業高校と共同研究を進めたり、地元企業から部品供給を受けたりしながら、試作を進めているそうです。

いずれも「探究的な学習の時間」（5ページ参照）によるもの。深志の「自治」と親和性の高い学習活動です。この2組は資金難に陥っていて、石川校長（33回）の「ひよつとしたら同窓生が応援してくれるかも」というお誘いに応じての参加。そこまで聞いて黙ってはいない同窓生から当日の募金は35,858円に上りました。（5ページ二次コード参照）150周年の記念事業も現役生へのソフト面の支援が根幹です。

ところで、壇上に登った5人がすべて女子。「蜻蛉おみになに来てあれ」

会報部会一同